

第2次屋久島町観光基本計画 概要版（第1稿(レイアウト案)）

令和7年10月
屋久島町

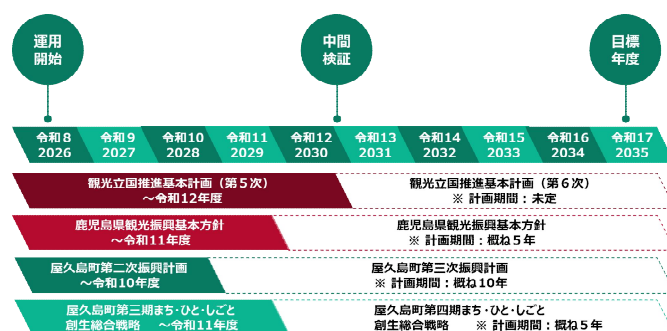
01 計画策定の背景と目的

本町の観光振興推進のためには、観光に携わる人々が一体となり、おもてなしの心を持って取り組むことが重要です。そして、観光消費が多くの産業や町民生活の活性化につながっていることに対する理解を深め、幅広い産業や町民の協力を得ながら観光立町を実現する必要があります。

第2次屋久島町観光基本計画は、前計画の成果と課題を継承・発展させながら、屋久島町第二次振興計画との整合、社会情勢の変化や本町を取り巻く課題を踏まえ、今後10年間の観光振興に資する施策を戦略的かつ計画的に進めていくための基本となる考え方や施策の方向、計画目標を示す指針として策定するものです。

02 計画の期間

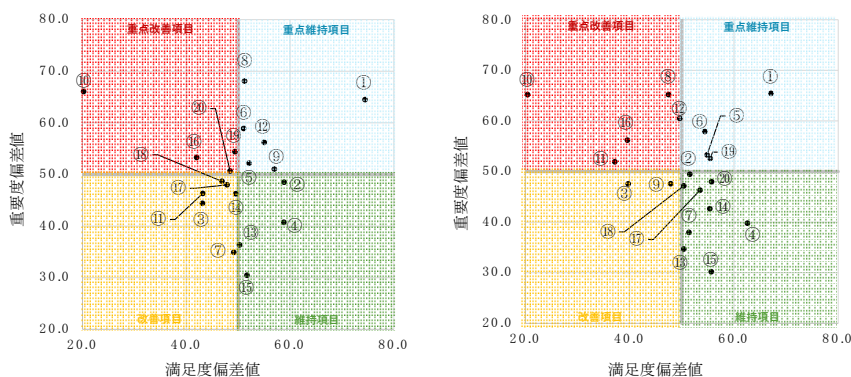
本計画の期間は、令和8年度を始期とし、令和17年度までの10年間とします。ただし、近年の観光を取り巻く状況の変化の著しさを鑑み、5年後に中間の検証を行い、必要に応じた見直しを行います。



03 前計画における取組のふりかえり

（1）取組の成果に関する（アウトプット）評価

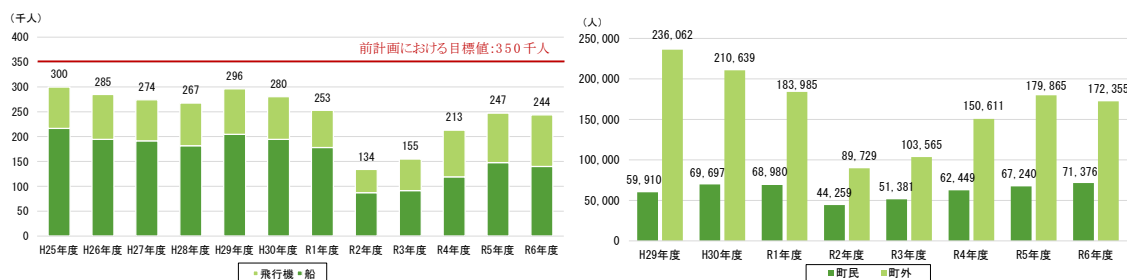
町民アンケート及び事業者アンケートから、重点改善項目として、いずれも⑩「利便性の高い交通アクセス環境の整備」が最も高くなっています。重点維持項目では、いずれも①「世界自然遺産の魅力を高める山・川・海・里のエコツアーや体験型メニューの充実」、⑤「屋久島独自の地産地消流通体制の構築と食の充実」、⑥「地場産業と連携した島内消費を促す仕組みづくり」が共通して挙げられています。また、⑧「世界自然遺産にふさわしい景観・環境の保存と形成」について、町民は重点維持、事業者は重点改善の項目として挙げています。



(2) 取組の効果に関する（アウトカム）評価

前計画では、令和2年度に本町への入込者数 350 千人を目指すとして目標値を設定しました。しかし、前計画策定以降も屋久島への入込者数は減少傾向にあり、平成 29 年度に増加したものの、再び減少し、さらに、令和2年度と令和3年度にはコロナ感染症の影響によって大きく減少しました。その後、回復傾向にあるものの、令和6年度は約 244 千人と目標値は非達成となっています。

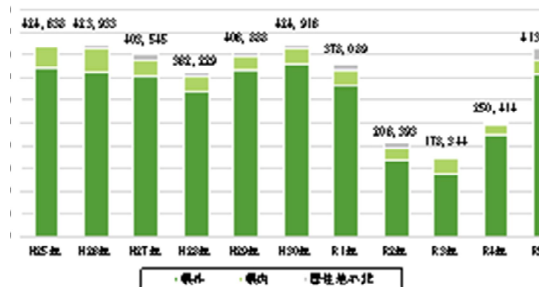
入込者数の町民と町外の内訳は、区分が可能となった平成 29 年度が町外者の入込者数が最も多く、以後、減少傾向にあります。令和6年度の入込者数は、コロナ禍前の平成 30 年度と比較して、町民は増加し、町外は約 38 千人の減となっています。



04 その他データから見る現況

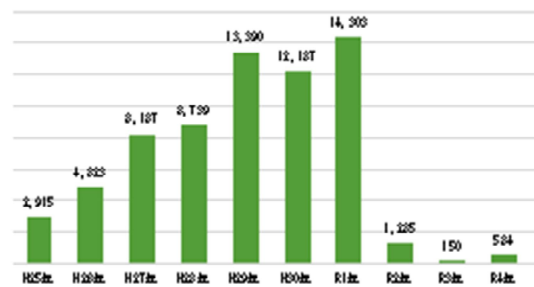
宿泊者数 * * * * *

* * * * *



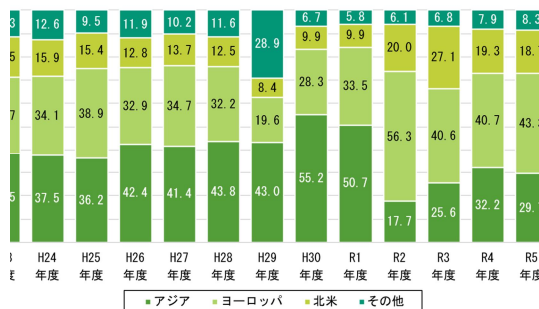
外国人宿泊者数 * * * * *

* * * * *



外国人入林者 * * * * *

* * * * *



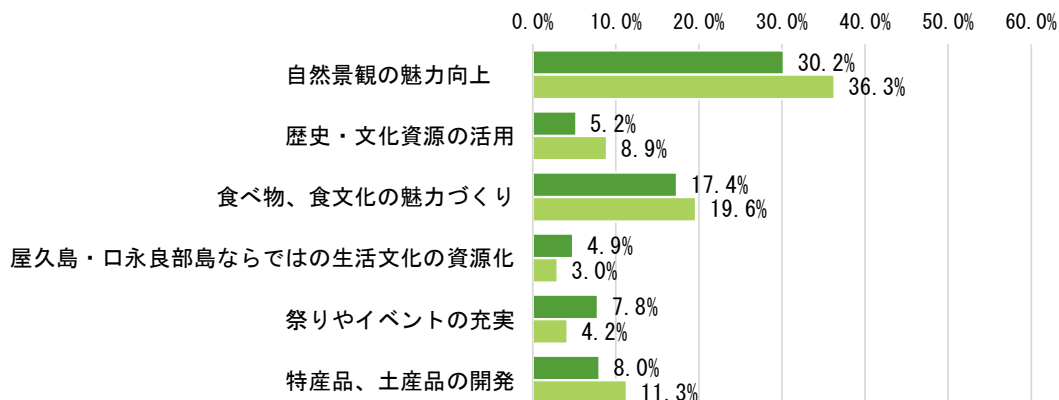
消費単価 * * * * *

* * * * *

05 町民及び事業者意向調査

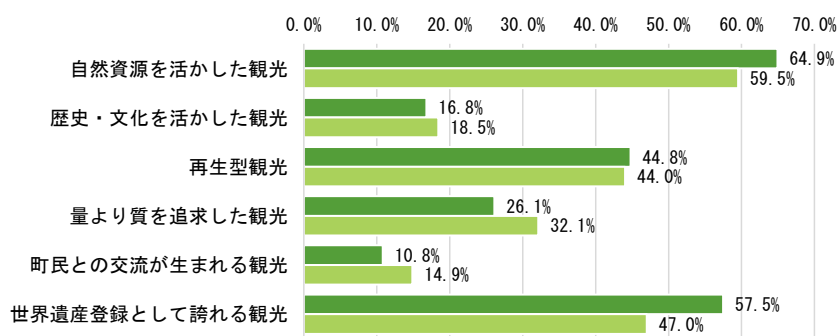
① 今後の観光振興で重要なこと

町民及び事業者のいずれも「自然景観の魅力向上」、「港や空港の整備充実」、「島内交通手段の充実、利便性向上」が、今後の観光振興で重要なこととして挙げられました。



② 目指すべきキーワード

町民及び事業者のいずれも「自然資源を活かした観光」、「世界遺産として誇れる観光」、「再生型観光」が上位3つを占めました。



06 屋久島町の観光のポイント

① 自然資源の保全と活用並びに安全性の確保

*****。

② 利便性の高い観光地域づくり

*****。

③ 観光客数の適正化

*****。

④ 観光消費額の向上

*****。

⑤ 島内体制の構築

*****。

07 屋久島町観光の基本理念

世界自然遺産登録された屋久島の自然は、人類にとってかけがえのない財産であり、次世代へ伝えていく必要があります。そのため、前計画の理念【エコツーリズムによる世界自然遺産『屋久島』の価値創造と観光立町】は今後も継続します。

本町は、ユネスコエコパークや「屋久島憲章」の理念実現に向けて観光施策を展開してきました。特にエコツーリズムの取組は、自然と人との共生を体現し、観光を地域の誇りや暮らしと結びつける重要な役割を果たしています。

近年では「サステナブル（持続可能）」や「リジェネラティブ（再生可能）」という考え方が注目されており、訪れることで地域や自然がより良くなる観光が求められています。本計画では、これまでのエコツーリズムを礎としつつ、新たな視点を加え、持続可能で再生可能な観光の実現を目指します。

世界自然遺産『屋久島』の価値創造

08 将来像

屋久島町は再生（リジェネレーション）してきた島です。戦前からの林業隆盛により大伐採が進みましたが、町民の努力と自然への敬意から起こった反対運動により原生林の伐採は中止され、1993年の世界自然遺産登録へと至りました。この歴史から、自然環境の保全・再生への高い意識を持つ本町にとって、「リジェネラティブ・ツーリズム」は非常に親和性が高いものです。

町民アンケートでは「自然資源を活かした」、「世界遺産登録として誇れる」、「再生型」といったキーワードが多く挙がりました。「岳参り」に象徴されるように、古くから畏れ敬ってきた自然に対する思いを強く感じることができます。本町の地域特性や歴史について町民自身が理解し、誇りを持ち、関わり続けることで、より魅力的な観光によるまちづくりが実現されます。

本町を訪れる方もまた観光によるまちづくりを共創する大切なパートナーです。本町の自然や文化等を尊重し、責任ある行動を心掛けてもらうことで、より魅力ある観光地形成が可能となります。町民と来訪者の双方が尊重・理解し合い、お互いに幸福を感じられる関係を築くことが本町の将来像の実現に不可欠です。

町に関わる全ての人で作りあげる

世界に誇る再生型観光まちづくりの実現

09 施策体系

基本理念	将来像	基本方針	基本施策	
世界自然遺産『屋久島』の価値創造	町に関わる全ての人で作りあげる世界に誇る再生型観光まちづくりの実現	基本方針1 持続可能な 観光地域づくり	環境 1	1 誇り高い自然資源の保全・再生
				2 環境に配慮した観光地整備と景観保全の推進
				3 循環と再生の仕組みづくり
				4 里海の保全と海辺資源の持続的活用の推進
				5 自然影響モニタリングとキャパシティ管理
				6 公共交通・移動手段のグリーン化
			社会文化 2	1 文化・歴史資源を活かした観光コンテンツの創出
				2 地域住民と観光客が関わる交流の場の創出
				3 口永良部島の文化・自然資源の活用
		基本方針2 戦略的な 観光誘客	経済 3	1 食の魅力発信
				2 高付加価値商品の開発
				3 地域内経済循環の促進
			国外 4	1 国際的価値のブランド確立
				2 滞在型・体験型プログラムの充実
				3 高付加価値旅行への対応
				4 多言語対応等の拡充
			国内 5	1 関係人口の創出と共創の促進
				2 教育旅行や企業研修旅行、国際会議の受入促進
		基本方針3 しくみづくり	特定 6	1 レスポンシブル・ツーリズムの浸透
			7	1 快適性の向上
				2 観光まちづくり人材の育成・強化
				3 観光 DX の推進
				4 情報発信の強化
				5 観光危機管理の推進

10 主な具体的な取組

基本方針 1：持続可能な観光地域づくり

基本施策 1 - 3 循環と再生の仕組みづくり

地域に根ざした自然資源や文化的資産を活かし、観光によって生まれる環境負荷の最小化と価値の再創出を図るため、循環型かつ再生志向の仕組みを構築します。

基本施策 2 - 2 地域住民と観光客が関わる交流の場の創出

本町の暮らしや文化を共有し、観光客と地域住民が双方向に関わり合う場を創出します。

基本施策 3 - 2 高付加価値商品の開発

本町の自然・文化・ライフスタイルの価値を活かし、滞在満足度と地域経済への波及効果の高い観光商品の開発を推進します。

基本方針 2：戦略的な観光誘客

基本施策 4 - 1 国際的価値のブランド確立

本町の自然・文化・環境への取り組みを国際的な視点で発信し、世界に誇る持続可能な観光地としてのブランドを確立します。

基本施策 5 - 1 関係人口の創出と共創の促進

屋久島と多様な形で継続的に関わる「関係人口」を全国各地に広げるため、交流機会の創出を推進するとともに、単なる交流に留まらず、地域活動の担い手として活躍してもらい、地域と観光客の共創による観光まちづくりを進めます。

基本施策 6 - 1 レスポンシブル・ツーリズムの浸透

自然や地域社会への影響に配慮し、来訪者一人ひとりが責任ある行動をとる「レスポンシブル・ツーリズム」の考え方を広く共有します。

基本方針 3：しくみづくり

基本施策 7 - 1 快適性の向上

来訪者が本町で快適に移動・滞在できるよう、交通アクセスや情報取得環境の改善を図ります。

11 目標指標

(1) 将来像に対応する指標 (KGI)

指標名	現状値 (2024 年度)	目標値 (2035 年度)	計測方法
観光施策に関する町民満足度	22.9%	50.0%	「町民アンケート」より 各種取組への満足度

(2) 基本方針に対応する指標 (KPI)

基本方針 1：観光地域づくりに対応する指標

① 個人旅行客の町内消費額単価

現状値 (2024 年度)	目標値 (2035 年度)	計測方法
72,993 円	90,000 円	「屋久島町観光に関するアンケート調査」 より消費額単価

② 島の知名度やブランド力が向上したと感じる町民割合

現状値 (2024 年度)	目標値 (2035 年度)	計測方法
37.1%	50.0%	「町民アンケート」より観光振興による 地域への好影響で当該選択肢回答者割合

③ 自然景観や環境の保全・整備に関する施策の満足度

現状値 (2024 年度)	目標値 (2035 年度)	計測方法
33.0%	50.0%	「町民アンケート」より該当施策への満足度

基本方針 2：観光誘客に対応する指標

① 屋久島への町外入込者数

現状値 (2024 年度)	目標値 (2035 年度)	計測方法
172,355 人	220,000 人	「統計 屋久島町」より町外入込者数

② 屋久島への訪問回数（2 回目以上）

現状値 (2024 年度)	目標値 (2035 年度)	計測方法
19.9%	35.0%	「屋久島町観光に関するアンケート調査」 より訪問回数

③ 屋久島地区延べ宿泊者数

現状値 (2023 年暦年)	目標値 (2035 年暦年)	計測方法
413,808 人泊	660,000 人泊	「鹿児島県観光統計」より 屋久島地区延べ宿泊者数